

Half of the patients with amyotrophic lateral sclerosis after ventilation have apparent frontotemporal lobar atrophy: A quantitative survey of 92 patients by CT imaging

| | |
|-------|--|
| メタデータ | 言語: English 出版者: 公開日: 2018-11-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 菅野, 和彦 メールアドレス: 所属: |
| URL | https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2002372 |

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 乙第 2435 号

Half of the patients with amyotrophic lateral sclerosis after ventilation have apparent frontotemporal lobar atrophy: A quantitative survey of 92 patients by CT imaging

(人工呼吸器装着下筋萎縮性側索硬化症患者の半数は明瞭な前頭側頭葉萎縮を呈する：CT 画像による 92 例の定量的計測)

菅野 和彦 (すがの かずひこ)

博士 (医学)

論文内容の要旨

筋萎縮性側索硬化症 (以下 ALS) と前頭側頭葉変性症 (以下 FTLD) は臨床病理学的にも遺伝学的にも有意に重畳することが示されている。認知症乃至 FTLD の代用指標として、人工呼吸器装着下の ALS 入院患者多数例で、CT 画像を定量的に計測して脳萎縮の出現率とその特徴を調べた。

前側頭葉と前頭葉の萎縮そして側脳室下角と前角の拡大を 4 構成要素として計測して、92 名の ALS 入院患者 (年齢 68.3 ± 11 歳 ; 罹病期間 7.6 ± 4.8 年) と 42 名の年齢調整された健康対照者 (年齢 60.4 ± 13.6 歳) で脳萎縮の程度を評価した。

ALS 患者の半数以上が、正常対照の平均値より 2SD 以上離れていた。比率は前側頭葉で 92 例中 58 例 (63%)、前頭葉で 74 例 (80%)、下角で 55 例 (60%)、前角で 48 例 (52%) だった。ALS 患者は対照群に比し側脳室前角 ($p = 0.06$) 以外で萎縮が有意だった (共分散分析 ANCOVA, $p < 0.05$)。萎縮度 4 要素の非階層クラスター分析で ALS 患者は以下の 5 型に分割された。1) 正常から軽度の前頭側頭皮質萎縮 (51%)、2) 軽度の前頭側頭葉萎縮 (26%)、3) 中等度の前頭側頭葉萎縮 (15%)、4) 重度の前頭側頭葉萎縮 (4%) と 5) 重度の側頭葉萎縮 (3%)。

人工呼吸器装着下 ALS 患者で CT 上半数に明瞭な前頭側頭葉萎縮 (2 型から 5 型) が認められ、半数に FTLD の合併が示唆された。